



## コロナ禍を越えて—— 頑張る！「AFSどさんこ奨学生」

この2年近く世界を席卷した「新型コロナウイルス」は文字通りの“AFSワールド”に驚異的な打撃を与えました。その未曾有の危機は解消されていませんが、「AFS北海道」（北海道の全4支部）ではボランティア活動の改革をはじめ、リモートによる「交流会」（これまで計7回）を海外の高校生とも結び、新たな挑戦を続けています。

いっぽう「AFSどさんこ奨学金」活動では、奨学生が留学途中の緊急帰国や渡航の延期という多くの困難があってもくじけずに克服。「受入」では2020年末からアルゼンチンの1名が来札、また「派遣」では2021年秋までに、札幌日大高と北海道別海高出身の2名がドイツで希望に満ちて、生きた多文化体験を頑張っています。

アルゼンチンからの受入生トミさんは滞在中、同奨学金に寄付支援をいただいている（株）ほくていホールディングス〔本社札幌市〕を訪問し、感謝の気持ちをお伝えしました。「機会があれば日本の大学で学ぶことも視野に」と、北大キャンパスも見学して帰国しました。

さて、札幌支部では、同奨学金に長く寄付を寄せていただいているホクセイプロダクツ（株）・ホクセイ金属（株）〔本社高岡市〕のスウェーデン製商品MIRAFEX（夜間反射材アクセサリー）に、小型のAFSマークを付けて記念グッズを作成しました。「ムース」「ボード」「ハート」「コテージ」など可愛いデザインは大好評で、来日留学生へのプレゼントや、AFS支援の発信など多彩な活用を図っています。道内ではオホーツク支部でも大いに活用しておりますが、全国のAFSのグループや関係者ともこうしたAFSグッズのアイデアや効用も話し合っていきたいと考えています。

コロナ禍が新しいステージを迎える中ですが、「AFSどさんこ奨学金」では2022年度も「派遣」「受入」の奨学生（例年は計3名枠）をできる限り追求したいと念願しております。「郵便振替用紙」やAFS-HPからの個人寄付にもどうかご協力をお願いいたします。



▲オンライン交流会



▲どさんこ奨学生 五月女さん ドイツにて



▲反射材アクセサリー



▲どさんこ奨学生 トミさん 北大クラーク像前



# オホーツク支部

オホーツクは受入留学生のいない2年目の冬を迎えようとしています。派遣生はどさんこ奨学金をいただき、ドイツに滞在中です。下記は奨学生からのレポートです。是非ご覧ください。

その中で、私たちはAFS活動の原点を見つめ直しました。ボランティアとして今の私たちにできることは、次世代の若者のために支部環境を維持することであるとスタッフ一同再確認しました。

来年度は支部長を交代し、新しい体制で支部運営をスタートさせます。東京オフィスや北海道地域の支部の方々にもお力をお借りし、立て直しをしていきたいと思えます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

## ドイツでの日々

ドイツに来てから2ヶ月間が経ち、学校などの暮らしにもだいぶ慣れてきました。ホストファミリーとも仲良く楽しい日々を送ってます。最近、家ではもうクリスマス気分になっています。クリスマスのクッキーを作ったり、リースを買いに行ったり…マザーのお気に召すリースが見つからなかったので、デコレーション用のろうそくや松ぼっくりなどを買ってセルフメイドします。日本ではあまりやらないので新鮮なことだらけです。

私の通っている学校には私の他にAFSの留学生が4人います。アメリカ人の女の子、エクアドル人の女の子、ブラジルの男の子、そしてアルゼンチンの男の子がいます。つまり、私はドイツだけではなく、他の国の文化も同時に感じるという刺激的な毎日を過ごしています。日本と違うことや似ていることなどたくさんの発見があり、そしてどの話よりも盛り上がります。

留学する前、私は食べ物がとても心配でした。パンやじゃがいもがあまり好きではないし、炭酸は苦手だし…。ですが、ドイツの料理はどれも美味しく、日本食が恋しくなるよりもむしろ日本に帰ったときドイツの料理が恋しくなるんじゃないかと思っているほどです。

コロナウィルスの影響により制限が厳しいことがたくさんあり、心配することもたくさんありますが、私はドイツで元気に過ごしています。私が安心して留学生活を送れるのはホストファミリーやAFSの支部の方、日本で応援してくれるお母さん、日本のAFSの支部の方、どさんこ奨学金のおかげです。たくさんの方に支えられて私は今ドイツにいます。本当に感謝しています。これからどんどん寒くなりますので、みなさんお体には気をつけてください。

68期夏組ドイツ派遣 藤波 めぐみ





## 旭川支部



旭川支部のFacebook  
はこちらから

アジア高校生架け橋プロジェクト生がやっと来日できました。

成田のホテルに2週間滞在。その間オンラインでオリエンテーションを受け、やっと旭川に到着しました。フィリピン、ベトナム、中国の3人です。

去年から持ち上がりのミャンマー生と空港で出迎えしましたが、嬉しさがみんなの顔からあふれていました。受入れ高校の校長先生には「生で対面できる国際交流に、生徒も飢えていました」と嬉しいお言葉もいただきました。

今の日本は平和ですが、彼らの母国では政治、宗教、人種が原因で紛争があります。ミャンマーしかり、フィリピン生の出身地ミンダナオ島（イスラム教徒とキリスト教徒の紛争）しかり。今も世界のどこかで戦争、紛争が起きています。私たちAFSの根底にある考えは、違いを受け入れ尊重する、草の根の世界平和です。違った視点を持つ留学生が来ることでいろいろなことを考える機会を与えてもらうことができます。

娘が戦没者遺骨収集の仕事に携わっている関係で気付いたのですが、彼らの母国は第二次世界大戦の日本軍の激戦地でした。かなり戦争の被害を受けたと思います。日本に良い感情を持っていない人もいます。日本と母国との架け橋になるであろう留学生にとって、ただ国際交流が楽しい、外国人と接することができるだけの交流ではない何かを与えられたら、同世代の若者、私たち大人も平和のありがたみについて少しでも考える機会になるのではないかと思います。

先日、旭川藤星高校さんから英語でのディスカッションの授業に招待されました。テーマは「人種差別」でした。重い議題でしたが、留学生たちも真剣に考え、「お互いを尊敬することで人種差別はなくなるのでは？」という意見も出ました。とてもいい機会を与えていただいたことに感謝します。文科省の奨学金生であるアジア架け橋生が地域、学校、ホストファミリーの皆さんにいい影響を与えられ、彼らも日本で何かを学び、母国と日本との架け橋になれるように、私どももサポートしていきます。



## 帯広支部

帯広支部は6月に支部長が交代しました。現在会員拡大を行いつつ、コロナ後に向けて頑張っております。10月には帯広市内の帯広北高校、帯広大谷高校の2校に挨拶に伺いました。12月には帯広南商業高校に挨拶に伺う予定です。次年度の受け入れの予定はありませんが、2年後、3名程度の留学生を受け入れたいと考えております。

十勝管内にお住まいで、AFSの活動（ボランティアとして、またはホストファミリーとして）に興味関心のある方がおられましたら、支部までご連絡いただければと思います。

今後ともよろしくお願いたします。





# 札幌支部

今年もコロナでいろいろな予定が変更になり、高校やホストファミリーに何度も延期をお願いする事態となりました。オリンピック・パラリンピック後、ワクチン接種者が増えたからか、落ち着きを取り戻しつつある中、10月に3度に分かれて13名のアジア掛け橋プロジェクトの留学生がやってきました。半分以上が民間寮にお世話になっているため、当初はどこで何を買えばいいのかわからずおりましたが、食事のない時に何を食べるのか、留学生なりに考え、行動しています。宗教上の食事制限がある生徒もいます。しかし、生徒はみな学校を楽しんでいると、毎日頑張って登校しています。

4月からオンラインで始めた交流イベントに参加してくれていたこともあり、スタッフともすぐに打ち解けられました。先日は対面でローカルオリエンテーションを行いました。既に日本語が達者な留学生もいます。まだほとんどわからない留学生もいます。でも、みんな一生懸命に学んでいます。中には日本語で小説を書いてみたい、自分はあまり人と打ち解けられなかったが、日本に来て変わった、という生徒もいました。来日してまだ2ヶ月しか経っていませんが、とても頼もしいと思いました。いつか本当に日本との掛け橋になってくれることを楽しみに待ちたいと思います。

札幌支部では今後もいくつかのイベントを用意しています。いつもはオンラインですが、最後の交流会は何とか対面で実施し、これまでイベントに参加してくれていた中高生も時間の許す限り、参加してほしいと思っています。

今後も留学生をしっかりとサポートしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



▲トルコ・韓国・中国・マレーシア・インドネシア・フィリピン



▲ベトナム・カンボジア



▲インド・ブータン



◀▼日舞とお琴の体験会



▲モンゴル



▲地域の子供サイエンスイベント



▲ローカルオリエンテーション



▲第7回オンライン交流会





AFSについて



AFSは異文化学習の機会を提供する世界的な教育団体です。活動の起源は第1次・第2次世界大戦中に、傷病兵の救護輸送をしたボランティア組織、American Field Service（アメリカ野戦奉仕団）にあります。AFSの加盟国は約60ヶ国、交流国は100ヶ国以上に及び、理念に共感し活動を共にするボランティアと、多様な文化・価値観の人々と「共に生きることを学ぶ」活動を継続しています。留学プログラムの詳細は毎年3月以降に更新されます。ホームページをご確認ください。

## ホストファミリー 募集

AFSでは、日本を肌で感じたいと思っている多くの若者を、家族の一員としてホームステイで受け入れてくださるホストファミリーを随時募集しています。日本にしながら多様な価値観や文化を共有できる、素敵な体験をしてみませんか？  
募集説明会をオンラインで行っております。  
詳細は下記QRコードからご覧ください。

QRコード



写真？



【お問い合わせ先】

公益財団法人 AFS日本協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3丁目18-16 虎ノ門管井ビル6階

Mail : info@afs.or.jp またはHPまで

札幌支部

上島 忍

TEL : 070-1501-3411

Mail : shinobu.kamishima@afs.or.jp

旭川支部

吉田 聖名子

TEL : 080-3398-2287

Mail : info-asahikawa@afs.or.jp

帯広支部

駒澤 嗣夫

TEL : 090-8279-8219

Mail : tsugio.komazawa@afs.or.jp

オホーツク支部

直原 麻希子

TEL : 070-1501-3513

Mail : info-okhotsk@afs.or.jp